

市大自治会は

全国的大学改革の斗いの先頭にたとう！

田中資金による「会館」建設を、市大改革の突破口としよう

フランスでは、大学改革の嵐が巻き起こっている。彼らの大学改革の斗いは労働者と連帯し突き進んでいる。

昨年11月、ソルボンヌの分校ナンテールの学生は、教室・施設の拡充、リノミ教育反対、学問と学生生活の自由などの大学改善要求を掲げ、ストライキをやった。

そして、そのフランスの学生の斗いは、さらに今年3月22日の大学改善要求のデモに引きつられていき、この3月22日は、大学改善の斗いを新たな地平へと押し上げていった。それは、大学改革―教授と学生の共同管理―への道であった。そして、彼らは、大学改革が社会の改革と不可分であることを斗いの中でさしめした。

大学改善の要求は、単なる学生の物質的要求というふうなものではなく、それは、大学改革、つまり大学の根本的革新であり、社会改革の一環でもある。

その様なものとして、5月10日からのフランスの激動は開始された。

そしてその激動の中で、大学改革を社会の根本的改革と不可分のものとして闘うが故に、労働者との強固な連帯をうみだし得ている。

我々は、彼らの斗いから何を学ぶべきか？

フランス学生と連帯し、日本全土に大学改革の嵐を巻き起こそう！

他の大学のおかれている、マスプロ化、学生自治無視、大学の独占への奉仕の道義化などの現状は、日本においても、否、フランス以上に矛盾は激化している。それは應応大学の斗いに始まり、早大、明大そして今年の上野大と一連の科学の学費値上げ阻止の斗いの激発、そして、医学部のインターンの各大学での無期限ストなどの契入として表現されている。

つまり、日本に於いて、全国的大学改革のきざしある客観的基礎は、厳然と存在する（と）を示している。

しかし、日本学生運動は、まだ全国的大学改革の斗いを現実のものとはしていない。

それは、民青、全学連、リノミ要求の線によって一層困難なものとなっている。彼ら民青（全学連）一派は、学生の個別分散的要求を拒否する（と）し、それで固執して闘う（と）している。しかし、果して個別分散的要求の拒否で、彼らのいつか、学生層全体が、固執して闘いつつある（と）して、彼らの言う諸要求を具現するため



革新タールズ

全学区